

情報通知

研究課題名：急性期脳卒中患者の日常生活活動改善と異なる精神心理面の経過

研究の実施体制：木本茉佑、青木江里奈、田邊芽衣、関根英哉(沼田脳神経外科循環器科病院)

研究の目的：脳卒中後うつおよび意欲低下は脳卒中患者全体の33%に認められ、生活の質を低下させることが知られています。しかしながら、日常生活活動(Activity of Daily Living:ADL)の改善に比べて、うつ症状や意欲低下の経過は十分に検討されていません。本研究の目的は急性期脳卒中患者におけるADL、うつ症状、意欲低下の経過を調査することを目的としています。

研究の対象：2021年8月1日から2021年12月31日の間に沼田脳神経外科循環器科病院で入院リハビリテーションを受けた患者様が対象となります。診療録データベースの情報を見返して、情報を集めさせていただきます。対象となることを希望されない方は、最下部の連絡先までご相談ください。

収集する情報：対象者の年齢、性別、診断名、趣味および仕事の有無、在院日数、入院1週間以内(初期)と退院前1週間以内(最終)の日常生活活動動作の指標であるFIM(歩行・認知合計点・総合点)、自己評価式抑うつ性尺度(Self-rating Depression Scale; SDS)の得点、やる気スコア(Apathy Scale 邦語版)の得点を使用させていただきます。

情報の保管および破棄、情報公開の方法：

データを解析する段階では、個人を特定できる情報は含まれません。検査結果はExcelへの出力およびID番号を用いて対応表にて管理します。パソコン・ファイルは施錠可能な室内にて保管します。研究終了後(令和4年度末)のデータの取り扱いとして、デジタルデータはいかなるソフトウェアでも復元できないようPC上で完全に削除します。得られた結果については論文あるいは学会で発表することがあります。

見込まれる医学上の貢献：日常生活の改善と精神心理面の経過を追うことで、作業療法の実施内容の見直しと早期自宅退院や精神面へのアプローチ改善に向けての取り組みに繋がる。

研究に関する問い合わせ先：群馬県沼田市栄町8番地, 0278-22-5052(内線1141)

沼田脳神経外科循環器科病院 リハビリテーション部門 作業療法課

担当者：木本 茉佑(責任者)